



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

宗祖日蓮大聖人御会式法要

11月9日(土)～10日(日) 11時・14時 北辰閣2階御宝前にて

日蓮大聖人を偲び感謝する法要が御会式です
 参詣者には御会式桜とおはぎの供養があります

七五三詣り祈祷11月中毎日受付

ご祈祷を受けられたお子様には
 御札・御守り・記念品ならびに絵馬を差し上げます

〔11月の主な行事〕

★七五三詣り祈祷 1日～30日

◎お子様の成長を祈り期間中毎日ご祈祷します
 ご祈祷札並びに御守り・記念品等を贈呈します

☆宗祖御会式法要 9日(土)～10日(日)

宗祖日蓮大聖人のご恩に感謝し、報恩法要を
 二日間厳修 御会式桜・おはぎの供養あり

★清掃の日 15日(金)11時

★月例祈願法要 15日(金)13時

★鷗様月例祭 22日(金)15時

〔12月の行事予定〕

★写経会 8日(日)11時

★清掃の日 15日(日)11時～12時

★月例祈願法要 15日(日)13時

★鷗様月例祭 22日(日)15時

この日にご祈祷を受けた方には
 火伏せの守り札(鷗様の黒札)を授与します

◎ご祈祷ご回向等のお申込はFAX・メールでも
 受け付けています

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

◎送迎バス 奉賛会会員並びに、ご祈祷ご回向のためにご参拝の
 ご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上まで送迎車を
 用意しています。ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡を
 願います。但しご希望に添えないこともあります。

『蚊』

詠裡庵

この夏は記録更新を続ける暑さの毎日でした。また特に線状降水帯による記録的な豪雨が続きました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。今までにないこととはいえ、蚊が非常に少ない夏でした。例年だと、蚊取り線香をつけたりしますが、必要がありませんでした。雨が降らないので、蚊の生育する水たまりがなかったためかもしれません。そこで蚊について少し調べてみました。蚊は水中に産卵するので水たまりが必要ですが、川のように水の流れがあったり、池でも噴水などで水紋があると産卵には適さないそうです。産卵すると二日後にはボウフラになり、一週間後にはオニボウフラになって成虫になります。

ボウフラが生きるためには、彼らよりもっと小さい水中の微生物をエサにします。浮いたり沈んだりを繰り返しながら気楽に生きているように見えますが、金魚などの水中の動物にとつては格好のエサとされ、成虫になつて空中を飛ぶことができないものも少なくはありません。また成虫になつても小鳥などに狙われたり、人間の身体に止まって血を吸うときも叩きつぶされることもあるでしょう。そう考えると何か同情したくなる気もしてきます。私は夏にしか蚊はいないものと思っていました。冬冬の厳しい寒さの中でも成虫で生きている蚊がいるそうです。部屋の片隅で寒さに耐えているのですが、寒いので動くことができません。熊が冬眠しているような状態なのでしょう。以前部屋にストープを入れたとき、そんな蚊が飛んできたことがありました。また卵で越冬し、温かくなつた春に成虫になつて飛び回る蚊もいるそうです。やがて訪れる冬。暑い夏の後だけに寒さが身に応えそうです。自然環境の激変は蚊だけではなく、私たちにも襲いかかります。この先地球はどうなつていくのか、他人事ではなくだれもが真剣に取り組んでいかなくてはなりません。

衣更ころもがえ

広辞苑によると、「季節の變化に応じて衣服を着かえること。江戸時代では四月一日、十月一日をもつて春夏の衣をかえる日とした。現在、制服などは、六月一日と十月一日に行つことが多い。」とあります。当山でも祖師像や山務員の袈裟や法衣はこのようにしてきました。十月に入つても暑さは変わらず十五日を以て衣更えの日と定めました。

《法華經に学ぶ現代》

純智庵

能く衆生に

佛の智慧

如来の智慧

自然の智慧を

與う

『囑累品第二十二』

佛の智慧を学ぶには、まずは自然を、知るのだ。自然の中には知恵がある。たとえ学校行かずとも、生き生きするよ草や木も親の生き方受け継いで、今日もすくすく、伸びている。大地にしつかり、根を下ろそう。

仏教まめ知識

涅槃(ねはん)

サンスクリット語ニルヴァーナの音写。もとは吹き消すこと、また吹き消した状態を言う。そこから煩惱の炎を吹き消し、迷いのない境地を示す仏教語となった。二月十五日が釈尊涅槃会と呼ばれるなど、釈尊の入滅を指す言葉にもなっている。涅槃に二種あり、心の迷いは吹き消されても肉体がまだ残っている状態を有余涅槃。心も肉体も完全に滅して煩惱の炎が再び燃えることのない状態を無余涅槃という。小乗仏教ではこの無余涅槃を修行者の最終目的としているが、実生活の中での利他の菩薩行を説く大乘仏教はこれを批判している。法華經の自我偈では「衆生を度せんがために方便して涅槃を現す。しかも実には滅せず」と、釈尊のご入滅は方便だとし、久遠本仏が開顕されている。